

主として

大学と地域・社会との
連携の工夫改善

に関するテーマ

地域・大学連携による
医療系基本教育

～ ボランティア活動による教育を中心に～



北海道医療大学

実施学部・学科

心理科学部 / 臨床心理学科、言語聴覚療法学科
看護福祉学部 / 看護学科、臨床福祉学科
薬学部 / 総合薬学科 歯学部 / 歯学科

地域に密着したボランティア活動で、 地域社会への貢献と、質の高い職業人育成を図る

学生主体で運営を行う ボランティアセンター

本学は医療系の総合大学として、地域社会に貢献できるエキスパートの育成を行ってきました。学内での学習だけでなく、社会での体験活動を重視し、実習やボランティアを積極的に推進しています。こうした本学の取り組みに対して、地域社会から寄せられる期待は大きく、また、学生自ら行うボランティア活動も、とても活発になっています。

そうした地域との連携をさらに強めるため、本学では2002年5月に、地元当別町の中心街にある空き店舗を利用し、「北海道医療大学ボランティアセンター」(別称:当別町青少年活動センター・ゆうゆう24)を開設。学生のボランティア活動を組織化して、地域の福祉サー



ボランティアセンターには、喫茶コーナーや障がい者施設などの作品販売コーナーも設けている。

ビスを多面的に支援・創設する取り組みを始めました。

ボランティアセンターの運営は、本学の学生たちが中心となって行っています。ボランティア登録数は約300名。臨床福祉学科の学生だけでなく、薬学・歯学といった他学部・学科からの参加者もいます。学生たちは、地域で何ができるのかを主体的に考え、当別町役場や社会福祉協議会、商工会といった関係機関と連携しながら、地域福祉の拡充に取り組んでいます。

地域に開かれた大学として ボランティアで交流推進

ボランティアセンターでは、さまざまな活動を行っています。障がいのある子どものレスパイトサービス(一時預かりサービス)や小学校から学童保育の場へと送るサービス、福祉施設を訪問してのレクリエーション活動、母子通園センターなどでの介護補助、地域作業所を立ち上げてその運営を支援するなど、地域の声を取り入れた、オリジナリティのある活動が特色となっています。



オープンカレッジでの活動風景。

なかでも2003年4月から開催した、北海道初の試みである、知的障がいのある方を対象としたオープンカレッジには、多くの反響が寄せられました。これは、生涯学習の場がなかった障がいのある方や、その家族からの要望に応えたもので、学生たちが企画・運営を行い実現させました。参加者は、地域福祉論や造型、音楽といった講義の中からいくつかを選択し、学んでいます。また、学生にとっても、共に学ぶ楽しさを共感できる、貴重な体験の場となっています。

本学では、これからもこうした取り組みを進めていき、地域貢献と学生の学習意欲の向上を図っていきます。医療や福祉の専門職業人として、どう地域にかかわり、どう生きていくか。その答えを、学生たちは自主的に見つけていくのです。

問い合わせ先

〒061-0293北海道石狩郡当別町金沢1757 入試広報課
TEL(01332)2-2111(直)
【ホームページ】<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp> 【Eメール】nyush@hoku-iryo-u.ac.jp



この記事は、ベネッセコーポレーション発行 進研プレス 2004「受験オリエンテーション」に掲載されたものです。